



## おいしいおこめ ありがとう

みなかみ町立水上小学校 1年 関 口 宏 翔

ぼくのうちのおこめは、とつとりからおくられてきます。とつとりにすんでいる、おじいちゃんとおばあちゃんがつくっているおこめです。

ぼくは、ほいくえんのときにバケツでおこめをつくったことがあります。あめのひいがいは、まいにちみずをあげました。ぼくは、とつとりでおこめをつくるてつだいをしたことがあったので、ほができるまでにじかんがかかるとをしつついたけれど、じぶんでつくってみるとおもったよりもじかんがかかりました。そのぶんおこめができるのがとてもたのしみでした。おじいちゃんやおばあちゃんもおなじきもちなのかなとおもいました。じっさいにおこめができたときには、みんなでよろこびました。じぶんたちでそだてたことで、よりおこめのことをすることができました。

しかし、いつもじょうずにつくれるわけではありません。おおあめがふったとし、おばあちゃんがいました。

「いねがみずにつかってめがでてしまった。あんなにたいへんなおもいをしたのに、ことしはあまりおこめができそうにない。」と、がっかりしていました。そんなおこめがすぐないとしにも、かならずおこめをおくってくれます。だから、ぼくはいつもおいしいおこめがたべられることにかんしゃしています。

ことしのなつも、とつとりのおじいちゃんのいえへいきました。おおきくなつたいねのさきにほがついて、たんぽいっぱいにひろがっていました。くがつのおわりにはいねかりをするそうです。たいふうがこないことをいのっています。ことしもとつとりのおいしいおこめがたべられるのをたのしみにしています。まいにちごはんをもりもりたべるぞー！